

平成 27 年 2 月 20 日  
一般財団法人東京マラソン財団

東京がひとつになる日。



東京マラソン 2015 に関する数字

給水等	給水所	15カ所（コース約2.5kmごと）その他スタート、10kmフィニッシュ、マラソンフィニッシュ※給食は5カ所（17km以降に約5kmごと）
	スポーツドリンク	約462,000杯分 ポカリスエット、アミノバリューコック ※1杯150ml（大塚製薬 ご協賛）
	水	約429,000杯分 クリスタルガイザー ※1杯150ml（大塚製薬 ご協賛） ※緊急時対応として5カ所（12km、17km、22km、27km、32km）の水源と1台の給水車（38km）を手配
	紙コップ	約953,000個（水、スポーツドリンク）
	バナナ	約96,000本（ドール ご協賛）
	一口アンパン	約15,000個 [32km]
	一口チョコパン	約13,000個 [22km]
	トマト	約70,000個 [スタート、22km、27km、32km、38km、マラソンフィニッシュブース]（カゴメ ご協賛）
	ぶどう糖	約31,000粒 [27km-16,000粒、32km-15,000粒]
	梅干	約24,000個 [27km-12,000個、38km-12,000個]
	チョコレート	約40,000粒 [32km-20,000粒、38km-20,000粒]
	栄養食品	約50,000本 [スタート-両フィニッシュ他] カロリーメイト（大塚製薬 ご協賛）
	みかん	約37,000個 [マラソンフィニッシュ]（築地市場協会、淀橋市場協会 ご提供）
	塩飴	約22,000個 [17km-12,000個、38km-10,000個]
設備/物品	仮設トイレ	スタート496基、コース上428基（41カ所）
	特設スタンド	スタート384席、マラソンフィニッシュ1,296席
	足湯	8台（スタート ご提供）128人程度の対応が可能 ※マラソンフィニッシュのみ
救護	救護所	15カ所（スタート含むコース上13カ所≪20kmまで5kmごと、以降は約2.5kmごと≫、フィニッシュ≪西含む≫2カ所）
	AED	AED総数75台内訳：救護所配備16台（スタート救護所から40km救護所まで13カ所13台、フィニッシュ救護所2台西展示棟救護所1台）、フィニッシュ横1台、その他 モバイル隊22台、BLS隊36台 【定点配備】（日本光電 ご協賛）
	BLS隊	37隊、74人 救護所を含めコース上約1km間隔に33隊配置、フィニッシュエリア4隊≪AED対応メディカルスタッフ≫
	BLS サポート隊	27隊、70人 救護所とBLS隊の間約500m付近を最低2人以上でサポート
	モバイル隊	22隊、44人 コース上を自転車で行うAED対応のメディカルスタッフ
	ドクター等	医師47人、看護師75人、トレーナー74人、その他（東陸、ボランティア）約350人、ランドクター50人（10km以降コース伴走）
	救護車	32台（スタート含む各救護所に1から2台、コース上泉岳寺交差点1台、品川近くのトンネル1台含む）
車両	手荷物トラック	40台（内予備2台）/マラソン38台（10トン34台、4トン3台、エリート用4トン1台）、10km2台（4トン2台）※1台あたり約200-1,000個積載
	収容バス/ワゴン	収容バス他46台（はとバス）、収容ワゴン6台、車いす収容ワゴン35台
沿道対策	交通規制	長時間のところ 銀座 5時間35分 浅草 4時間45分 有明 6時間20分 交通規制チラシ約250万枚（新聞折込約219万枚を含む）、ポスター約3万枚（電車、バス中吊を含む）、ラジオ告知840回
ボランティア	参加者数	11,611人
EXPO	出展ブース数	114団体
東京マラソン祭り	会場数	28会場
	出演者数	5,000人以上（総出演団体数約150団体）
競技	ペースメーカー	【エリート】大会で定めたペースでレースを引っ張る役目の走者 ペースメーカーの人数 男子3人、女子3人
	ペースセッター	【市民ランナー】3時間（5人）、3時間30分（5人）、4時間（5人）、4時間30分（5人）、5時間（5人）、5時間30分（5人）の記録を目標にコースを走る
警備・誘導	警備員・誘導員数	約6,000人
	TEAM SAFETY	約300人
	固定式金属探知機台数	60台（スタート 50、フィニッシュ 10）
	監視カメラ	21台
その他	コーン&バー	コーン9,270本、バー4,840本、規制テープ 300本（1本50m）
	スタッフウェア	約14,000着（ボランティア及び大会関係者）（一部アシックスジャパン ご協賛）